



# あさのちゃんねる

vol.56

2026年 新春号  
(年4回発行)

特 集

高精密で安全、身体への負担が少ない!  
国産手術支援ロボット  
「hinotori™(ヒノトリ)」を導入



連携登録医のご紹介  
なかがわら胃腸科クリニック

院長 中川原 寿俊 先生



空気が乾燥しやすい  
季節です！

「続けやすい工夫」が  
感染予防のカギ。

## 病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

## 病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全・安心で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。



特集

# 高精密で安全、身体への負担が少ない! 国産手術支援ロボット 「hinotori™(ヒノトリ)」を導入

当院では2025年12月から国産手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入しました。同ロボットを導入しているのは北陸3県の民間病院では当院がはじめてで、地域の皆さんには地元で先進的なロボット支援下手術を受けていただけるようになりました。担当外科医長である古谷裕一郎医師がその特徴を解説します。

## 合併症のリスクを軽減、 早期回復にもつながる

当院では2025年12月から手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入し、12月の1カ月間だけでも大腸がんに対する4例のロボット支援下手術を実施しました。「hinotori™(ヒノトリ)」は2020年に製造販売承認を取得した日本初の国産手術支援ロボットで、川崎重工とシスメックスの共同出資により設立したメディカロイド社が開発しました。手術支援ロボットと言えば、アメリカ製の「da Vinci(ダビンチ)」が有名ですが、「hinotori™(ヒノトリ)」は

日本の医療現場に合わせて開発された国産機として、高性能かつ手厚いメンテナンス体制が評価され、近年注目が高まっています。私は以前に勤務していた病院で「da Vinci(ダビンチ)」を用いた執刀経験もありますが、いずれも操作がしやすく、優秀なロボットだと実感しています。

ロボット支援下手術といつても、ロボットが自動で行うのではなく、経験を積んだ外科医がロボットを遠隔操作して執刀します。腹部の数カ所にミリサイズの小さな穴を開け、そこから内視鏡カメラと手術器具(鉗子や電気メス)を挿入して患部の切除や縫合を行います。外科医はロボット本体と連動するコックピット(操縦席)に座り、鮮明な3D映像を見ながら、自分

の手を体腔内で動かしているような感覚でロボットを操作します。最新バージョンでは手術器具を動かすアームの関節数が増え、可動域が広がり、よりスマートな動きができるようになりました。開腹手術では手が入りきらない狭い部分や血管が複雑に交錯する部分でも、ロボット支援下手術ならアームが器用に動いてくれるため、神経や血管を温存しやすく、排尿障害や神経障害といった合併症のリスクを軽減できます。出血も少なく、術後の早期回復が見込めることも大きなメリットです。

低侵襲な手術として、ロボット支援下手術と同様に腹部に小さな穴を開けて手術器具を挿入する腹腔鏡手術がありますが、多関節のアームを使うロボット支援下手術は精密さでより優れています。また、開腹手術や腹腔鏡手術をする際、外科医は手術が終わるまで立ち続けることになりますが、ロボット支援下手術は座った姿勢で行うため、術者の身体的負担を減らすことができます。

## お腹の奥深くにある 大腸がんのロボット支援下手術

現在当院では症例数が多い大腸がんに対して、「hinotori™(ヒノトリ)」を用いたロボット支援下手術を行っています。大腸は腹部の奥深くに位置します。一部は骨盤の中の狭い空間にあり、重要な神経や血管が走行しているため、複雑な動きが得意な「hinotori™(ヒノトリ)」を用いることで、より精密で安全な手術が可能になります。

現在、「hinotori™(ヒノトリ)」は消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科の領域で保険適用されており、その他の疾患へも適応の拡大が期待されています。当科でも胃がんの手術などさまざまな疾患に適応を拡大していきたいと考えています。

今後、症例数が増えて臨床研究が進めば、がん治療としての根治性(がんを確実に取り除くこと)についても優れた結果が出てくると期待されています。また、「hinotori™(ヒノトリ)」とインターネット設備を組み合わせて、遠隔地からロボット支援下手術ができる環境が整えば、大学病院と連携した手術や、遠く離れた

病院にいる患者さんの手術ができるようになるでしょう。例えば、「hinotori™(ヒノトリ)」を使って、移動が困難な能登にいる患者さんを当院内で遠隔手術をすることも可能になります。

## 住み慣れた地域で 先進的な治療が受けられる

「身体に優しい治療をしたい」「がん手術後の合併症を減らしたい」。そんな思いがあり、当院は手術支援ロボットを導入しました。外科的手術には開腹手術と腹腔鏡手術があり、今回、そこに加わった新たな選択肢がロボット支援下手術です。術法によってそれぞれメリット、デメリットがありますが、高精密で低侵襲、術後のQOL(生活の質)向上も期待できるロボット支援下手術は今後、主流になってくるでしょう。また、これは日本全体の課題でもありますが、近年、外科医が不足しており、日本の医療を守る上で外科医を育成しなければなりません。当院では最新のロボット支援下手術ができる環境を整えることで、さまざまな術法を身につけた外科医の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

地域の皆さんは、遠方の病院に行かなくても、慣れ親しんだ当院で最新のロボット支援下手術が受けられるようになりました。大腸がんの罹患者数は増加傾向にあり、当院でも年間に60症例以上の手術を行っています。血便や腹部膨満感といった症状がある場合、放置せず、適切な診断を受けることが重要です。当院では初期の診断から治療、最先端のロボット支援下手術までシームレスに行えますので、不安な症状があれば、ご相談ください。



Pick UP!

# 最新手術支援ロボット「hinotori™」導入のお知らせ

## 北陸の民間病院で初導入！

最新の国産手術支援ロボット「hinotori™」が、当院の外科治療を進化させます。



浅ノ川総合病院では2025年に最新の国産手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入し、12月より稼働を開始いたしました。

石川県内では金沢大学附属病院に次ぐ2台目の導入であり、北陸3県(石川・富山・福井)の民間病院としては初の導入となります。

これにより、地域の皆さまが遠方の病院へ行かずとも、住み慣れた地元で最先端の低侵襲治療を受けられる体制が整いました。

### 日本発の技術「hinotori™」とは？

「hinotori™」は、日本のものづくり技術を結集して開発された「初の国産手術支援ロボット」です。ロボット手術と聞くと「ロボットが自動で手術をする」というイメージを持たれるかもしれません。実際には医師がロボットを遠隔操作して行う「ロボット支援下手術」です。医師が3Dモニターを見ながら操作台で手を動かすと、その動きがリアルタイムで患者さんの体内のロボットアームに伝わります。

#### ● 人間の手を超えた可動域

ロボットアームの先端には「持針器」や「鉗子」が装着されており、人間の手首以上の広い可動域を持っています。これにより、人間の手では届きにくい、お腹の奥深くの狭いスペースでも精密な操作が可能です。

#### ● 手ぶれのない精密な操作

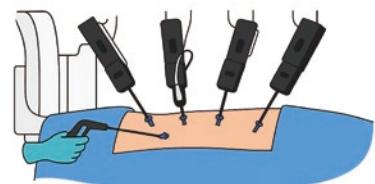
医師の操作から細かな「手ぶれ」をコンピュータが自動で除去します。これにより、ミリ単位の極めて繊細な作業が、常に安定した状態で行えます。

#### ● 3D高精細カメラによる鮮明な視野

高画質な3Dカメラにより、体内の様子を肉眼の10倍から40倍に拡大してモニターに映し出します。微細な血管や神経、組織の境界線までが鮮明に見えるため、より安全な手術に直結します。

#### ● 将来的には遠隔手術にも対応可能

遠隔操作機能は、大学病院との連携や術者教育にも活用でき、地域医療の新しい形を切り開く可能性を秘めています。



## 「hinotori™」がもたらす患者さんのメリット

ロボット支援下手術は、患者さんにとって多くのメリットをもたらします。

### ● 小さな傷口と痛みの軽減

ミリサイズの小さな穴を数箇所開けるだけで手術を行うため、従来の開腹手術に比べて傷跡が非常に小さく、術後の痛みが軽減されます。

### ● 出血の大幅な抑制

精密な操作と高精細な視界により、出血を最小限に抑えることが可能です。

### ● 機能温存と合併症リスクの低減

特に骨盤内の手術(大腸がん等)では、排尿機能や性機能に関わる大切な神経が密集しています。ロボットの精密な動きは、これらの神経を傷つけることなく温存し、合併症のリスクを減らすことに貢献します。

### ● 早期の社会復帰へ

身体への負担が少ないため、術後の回復が早く、入院期間の短縮や早期の社会復帰が期待できます。



## 当院での対象疾患

### ● まずは「大腸がん」から。そして次なるステップへ

当院では、まず「大腸がん」に対するロボット支援下手術を開始します。大腸は骨盤の深い場所にあり、非常に狭い空間での精密な操作が求められるため、ロボットの強みが最も発揮される分野の一つです。今後は、胃がんなどの他のがん治療や、良性疾患への適応拡大も視野に入れ、より多くの患者さんに最新の医療を提供できるよう取り組んでまいります。

## ご相談・ご紹介について

当院では、大腸がん治療の経験豊富な医師が、ロボット支援下手術を含めた最適な治療法を提案します。以下のような症状でお悩みの方は、ぜひ一度、当院にご相談ください。

- ▶ 大腸がんの治療を検討されている方
- ▶ 大腸ポリープの切除が難しいと言われた方
- ▶ 便潜血検査で陽性だった方
- ▶ 血便や腹痛など、お腹の不調が続く方

## お問い合わせ

医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 外科外来  
TEL:076-252-2101(代表)

### ■外科チーム(左から)

中野 達夫 (副病院長・外科部長)

尾島 英介 (外科副部長)

古谷 裕一郎(医長)

真智 涼介 (医長)

チーム一丸となりこの最新技術を駆使し、これからも高度な医療を地域に還元してまいります。



こんにちは！感染対策室です！このコーナーでは、感染対策に関するトピックスを年4回お伝えしています。

第4弾は「**新型コロナウイルス感染症とインフルエンザB**」についてです。どちらも冬に流行しやすく、同時流行や重複感染も報告されています。正しい知識と予防策で、安心・安全な冬を過ごしましょう。

## なぜこの2つに注意が必要？

冬は空気が乾燥し、換気が不十分になりやすく、ウイルスが広がりやすい季節です。新型コロナウイルス感染症は依然として流行を繰り返しており、インフルエンザB型は2月～3月にピークを迎える傾向があります。両方に感染する『同時流行』や『重複感染』も報告されており、高齢な方にとっては重症化リスクが高まります。



## 症状の違いと共通点

- コロナ 発熱、咳、のどの痛み、倦怠感、嗅覚・味覚障害。
  - インフルB型 高熱(38℃以上)、咳、のどの痛み、全身倦怠感、腹痛や下痢などの消化器症状(A型と異なる特徴的な点)
- 共通点が多いため、自己判断は危険。症状が出たら医療機関に相談しましょう。

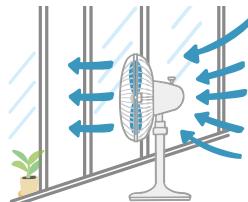
## A型にかかった後でも油断できない

インフルエンザA型に感染した後でも、B型にかかる可能性があります。A型とB型はウイルスの型が異なるため、片方に感染してももう片方への免疫は得られません。シーズン中に両方に感染するケースも珍しくありません。もちろん、コロナに感染した場合でも、同様にインフルエンザに感染します。

## 換気を中心とした感染対策(コロナ+インフルエンザB型)

### ①なぜ換気が重要なのか

新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスは、飛沫だけでなく空気中に漂う微細な粒子によっても感染が拡がることがあります。閉め切った部屋では、こうした粒子が長時間滞留し、感染リスクが高まります。換気は、ウイルスを外に排出し、新鮮な空気を取り入れる最も効果的な方法です。



### ②現実的な換気の工夫

寒い季節に窓を開けるのは負担に感じるかもしれません、短時間でも効果があります。例えば、朝と夕方に5分程度窓を開けるだけで、室内の空気は大きく入れ替わります。窓を全開にせず、数センチ開けてサーキュレーターや換気扇を併用すると、効率的に空気を循環できます。対角線上の窓を少し開ける『対角線換気』もおすすめです。

### ③24時間換気機能がある場合

近年の住宅には、24時間換気システムが標準装備されています。この機能は止めずに運転させることが重要です。停止すると、ウイルスだけでなく湿気や化学物質がこもり、健康リスクが高まります。電気代は月数百円程度で、健康や住宅寿命の面でメリットが大きいので、必ず運転を続けましょう。



### ④換気とあわせてできる簡単な工夫

換気とともに、室内の湿度を40～60%に保つことも大切です。加湿器がない場合は、洗濯物の室内干しで代用できます。また、外出後や食事前の手洗い、医療機関や混雑した場所でのマスク着用も基本的な対策です。これらを無理なく続けることで、感染リスクを大きく減らせます。

## まとめ

『やりすぎ』ではなく、『続けやすい工夫』が感染対策のポイントです。換気を中心に、加湿や手洗いなどの基本を取り入れることで、安心・安全な冬を過ごしましょう。

参考文献:厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」／厚生労働省「新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応」  
国土交通省「建築基準法に基づく換気設備義務化」

# 連携登録医のご紹介

今回は、金沢市粟崎町2丁目の  
『なかがわら胃腸科クリニック』を紹介いたします。

「なかがわら胃腸科クリニック」は、2016年に前身のクリニックを継承してスタートしました。当院は「おなかがわらうクリニック」を掲げ、胃腸疾患や生活習慣病の診療を行っています。

私は金沢大学第二外科にて消化器がん治療に従事してまいりました。その経験から、当日対応可能な内視鏡検査体制を整え、がんの早期発見に全力を注いでいます。

浅ノ川総合病院には、日頃より患者様をご紹介した際に親切かつ的確に診療していただき、深く感謝申し上げます。

今後も当院で病気の早期発見に努め、貴院での高度な治療へ繋げる連携に尽力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



クリニック外観

## 連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



院長 中川原 寿俊 先生

## なかがわら胃腸科クリニック

診療科：消化器外科、消化器内科、外科、こう門外科  
経歴：1994年 富山大学医学部卒業  
1994年 金沢大学第二外科入局  
2000年 高岡市民病院勤務  
2002年 国立病院機構福井病院勤務  
2005年 金沢大学がん局所制御学助教に就任  
2014年 金沢大学附属病院肝胆膵移植外科  
臨床准教授に就任  
2014年 金沢大学附属病院地域医療連携室長に就任  
2016年 医療法人社団 なかがわら胃腸科  
クリニック開業

資格：日本内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本外科学会認定専門医

### 診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/
15:00~17:30	○	○	○	/	○	/	/

休診日：日曜日、祝日、木曜日、土曜午後

住所：〒920-0225  
金沢市粟崎町2丁目402番地  
電話：076-237-3355  
駐車場：あり



# 地域の医療・介護・福祉機関等との連携を深める取り組み

当院は、紹介受診重点医療機関として、地域の医療・介護・福祉機関等との連携を深める様々な取り組みを通じて地域包括ケアシステムの充実、発展を目指しています。

## ○令和7年度 地域連携交流会

■日 時 令和7年11月14日(金)19:00~

■場 所 ホテル金沢 2階 ダイヤモンド

■内 容 □講演会(当院の強みの発信)

▶開会の挨拶 病院長 荒木 一郎

▶講演会(当院の強みの発信)

①慢性腎臓病の保存期加療と病診連携

腎臓内科 医長 宮竹 敦彦

②手術支援ロボット「hinotori」の導入

外 科 医長 古谷 裕一郎

③甲状腺内視鏡サージセンターについて

頭頸部・甲状腺外科 顧問 辻 裕之

④今注目される「腫瘍循環器病学」について

内 科 病院長補佐 松原 隆夫

▶閉会の挨拶 理事長 小市 勝之

□意見交換会

■参加者 171名(院外97名、院内74名)

地域連携交流会には、地域の医療・介護・福祉機関や救急隊などから、97名の皆さまにご参加いただきました。

講演会では「当院の強みの発信」をテーマに、当院が力を入れている高度医療や日頃の取り組みについて、リレー形式でご紹介させていただきました。

意見交換会では、活発な交流が行われ、当院の診療活動に関する貴重なご意見やご要望を伺うことができました。

今回の交流会は、地域の皆さまに当院をより身近に感じていただくとともに、顔を合わせて思いを伝え合う大切な時間となりました。

当院は、今後も地域との連携を深める取り組みを継続し、地域の医療・介護・福祉施設等の方々と地域の方々が安心して生活できる地域づくりを進めてまいりたいと思います。



開会の挨拶  
病院長 荒木 一郎



講演会会場



①慢性腎臓病の  
保存期加療と病診連携  
腎臓内科 医長 宮竹 敦彦



②手術支援ロボット  
「hinotori」の導入  
外科 医長 古谷 裕一郎



③甲状腺内視鏡  
サージセンターについて  
頭頸部・甲状腺外科 顧問 辻 裕之



④今注目される  
「腫瘍循環器病学」について  
内科 病院長補佐 松原 隆夫



閉会の挨拶  
理事長 小市 勝之



意見交換会会場

## 新任医師紹介

新しく赴任された  
医師を紹介します!



内科  
たかのぶ  
吉人

地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。

専門分野／消化器内科

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL:076-252-2101(代) URL:<https://www.asanogawa-gh.or.jp/>  
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp



浅ノ川総合病院  
公式サイト



X(旧 Twitter)



Instagram